

冬季のスプレーギク栽培における挿し穂への冷蔵処理技術

～ 1 か月の冷蔵処理により開花を促進 ～

和歌山県農業試験場 栽培部 島 浩二

1 はじめに

冬季のスプレーギク生産では、開花の遅れが生じやすく、安定生産の妨げとなっています。輪ギクでは、挿し穂の冷蔵処理による開花の促進が報告されており、スプレーギクへの適応が期待されます。そこで、スプレーギクに対する冷蔵処理技術の効果を確認するとともに適正な処理方法について検討しましたので紹介いたします。

2 冷蔵処理技術の効果

スプレーギク 8 品種における冷蔵処理の効果を調べました。採穂後、5℃暗黒条件で 25 日間冷蔵処理したものと処理を行わなかったものを 10 月 17 日に挿し芽、11 月 5 日に定植し、その後の生育と開花について比較しました。

消灯時の草丈は、いずれの品種とも冷蔵処理を行ったもので行わなかったものに比べて長くなりました（データ省略）。

‘レミダス’等 4 品種においては、冷蔵処理を行うことで発蕾が早くなり、その結果、開花も冷蔵処理を行わなかったものよりも 3～5 日早くなりました（図 1）。



図1 挿し穂への冷蔵処理が開花に及ぼす影響
品種は、エリートピンク

3 適正な冷蔵処理の期間

‘レミダス’と‘エリートピンク’を用いて挿し穂への冷蔵処理の期間が開花に及ぼす影響を調べました。冷蔵期間をそれぞれ 0 日間、17 日間、31 日間、46 日間とし、5℃で処理した後、10 月 21 日に挿し芽、11 月 5 日に定植を行いました。

‘レミダス’では、17 日間と 31 日間で 0 日間よりも 2～3 日早く開花に到りました（図 2）。「エリートピンク」では、31 日間で最も早く開花し、次いで 46 日間の順となりました。また、0 日間と 17 日間では開花に到らない株も発生しました（開花株率はそれぞれ 71%、94%）。

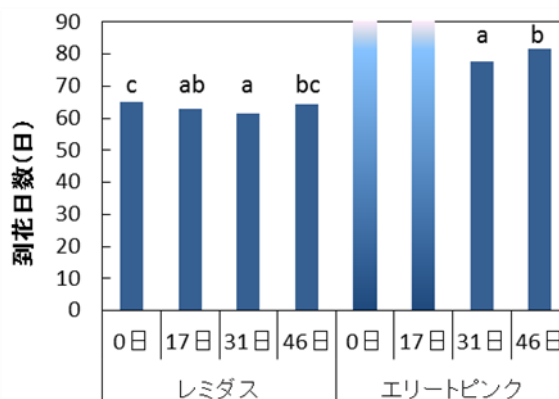


図2 冷蔵処理の期間が開花に及ぼす影響
各品種、異なるアルファベット文字間に
Tukeyの検定 (5%) により有意差あり

4 おわりに

以上のことから、スプレーギク挿し穂への約 30 日間の冷蔵処理により初期生育と開花が促進されることが分かりました。なお、今回の試験では冷蔵温度を 5℃としましたが、輪ギク等での事例から 2℃～5℃が適していると考えられます。